

事業展開と主な製品

機能化学品

無機化学品

半導体向け
洗浄剤を
中心に展開



過酸化水素

エレクトロニクスケミカルズ(EL薬品)

超純過酸化水素

ハイブリッドケミカル

電子材料

半導体パッケージ
基板材料の
トップメーカー



世界シェア

1位

超純過酸化水素

海外半導体メーカーの旺盛な需要に応え、顧客の成長に見合った供給能力を確保。また顧客に近接した開発拠点をグローバルに構築し、スピード感を持って課題解決に資する製品を継続的に提供。

シアネットモノマー

BTレジン

BT系製品

銅張積層板(CCL)

プリプレグ

OPE誘導体

世界シェア

1位

BT系製品

半導体業界の旺盛な需要に確実に対応。エンド顧客を意識したマーケティング体制を整備・強化し、市場のハイエンドからミドル領域を中心に高機能品を展開。

世界シェア*1

1位

OPE誘導体

最先端の半導体パッケージ基板やチップを搭載する高多層マザーボード向けで、電気信号の損失を抑えつつ、配線間の埋め込み性や高い耐熱性・信頼性という市場のニーズに応え、技術進展に貢献しています。

* 1 AIサーバー CCL素材として

光学材料

世界最高の
屈折率で
スマートフォンの
高機能化に貢献



世界シェア*2

1位

光学樹脂ポリマー

(自社製造／外部調達)

光学樹脂ポリマー

* 2 高屈折樹脂として

タイムリーな新規グレード開発と市場投入を継続し、スマートフォン分野での更なるシェア拡大を目指すとともに、IoT用途、センシング用途などスマートフォン以外のアプリケーションに向けた材料開発にも注力。

合成樹脂

エンジニアリング
プラスチックスを
展開



世界シェア

3位

ポリアセタール樹脂 (POM)

(外部調達)

ユピタール®(ポリアセタール樹脂)(POM)

レニー®
(高性能ポリアミド樹脂)

ビスフェノールA

ポリカーボネート樹脂
(PC)

PC・シート

PC・フィルム

生産・販売・開発をグローバルに統括した運営体制により、効率的な拠点運用と販売力の強化を進める。

生活衛生ソリューションズ

食・医・工業・
暮らしに関わる
産業全般に貢献



世界シェア

1位

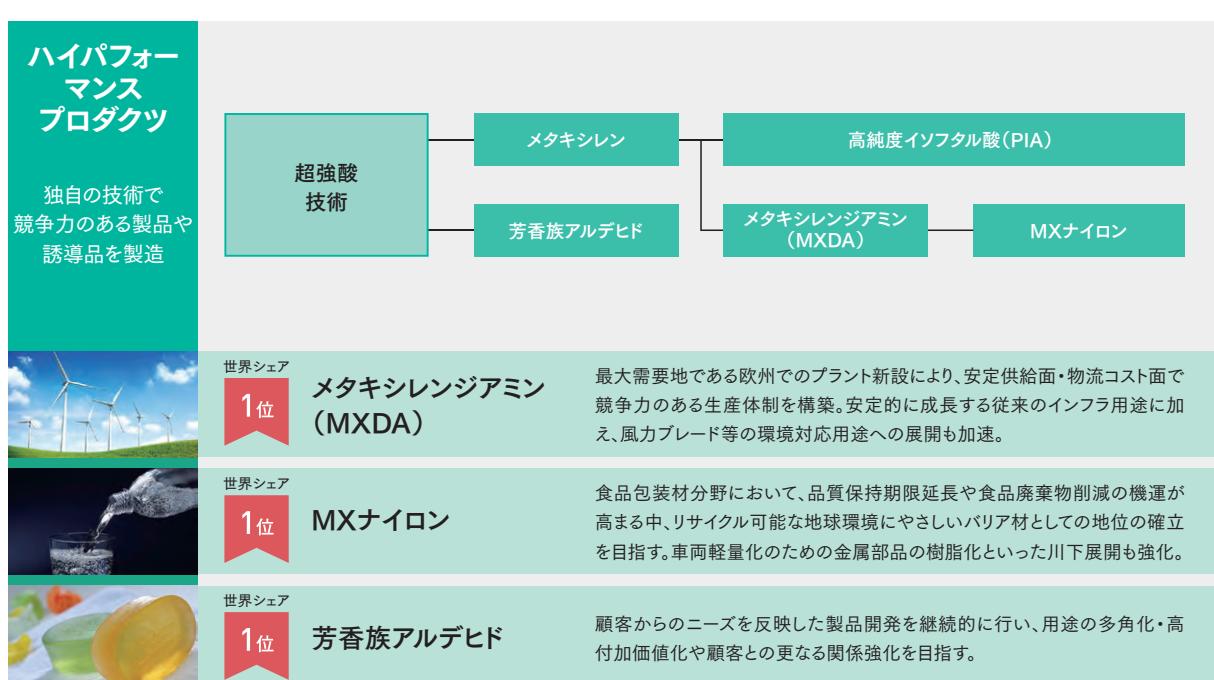
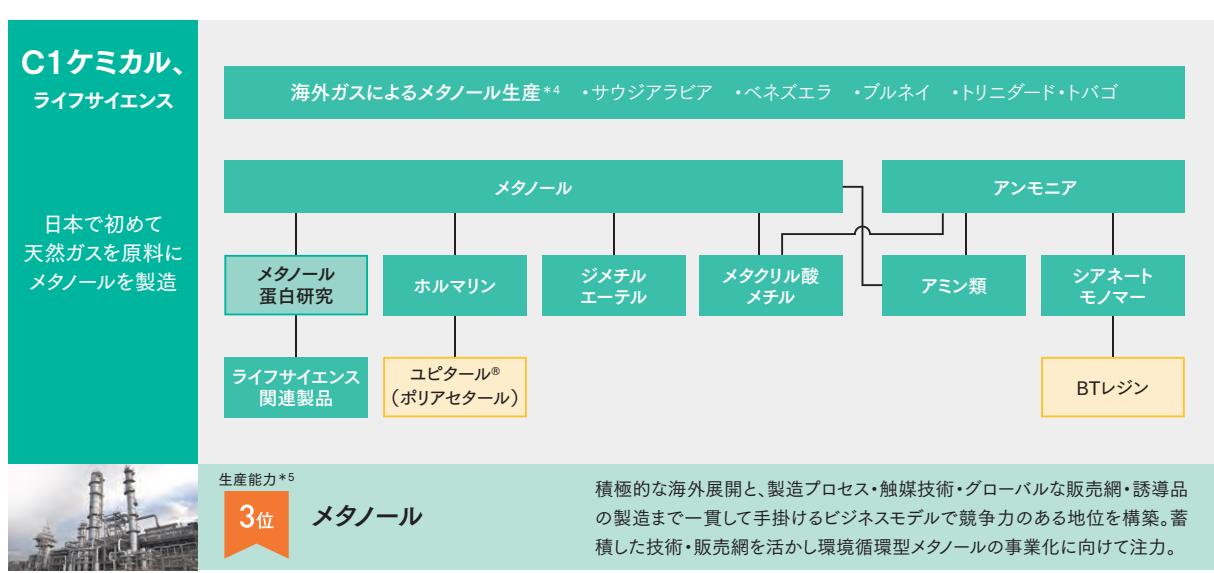
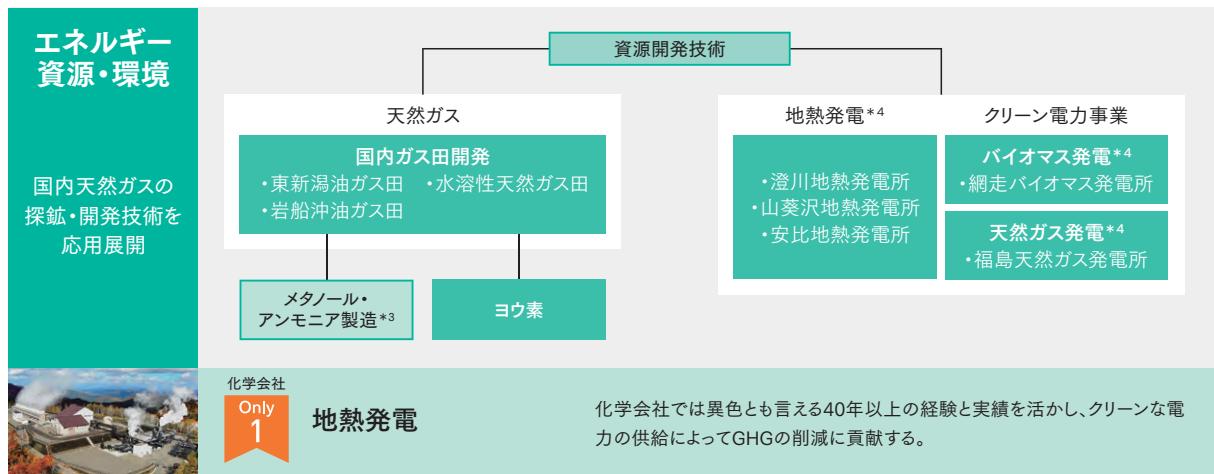
エージレス®

エージレス® RPシステム® フーマキープ® アネロパック®

環境衛生薬品

食品分野でのマーケットの拡大を目指し、海外への拡販にも注力。また、医薬品・医療部品や電子部品、文化財保護といった非食品分野に向けても、品質保持のトータルソリューションを提供。

グリーン・エネルギー&ケミカル



機能化学品事業戦略

担当役員レビュー

顧客価値を高める新たなソリューション提供や
品質のレベルアップによって、
収益力を高めていきます

山口 良三

取締役 専務執行役員
機能化学品事業部門担当



3か年で強化すべきテーマは、「品質」のレベルアップ

「Grow UP 2026」の1年目に当たる2024年度は、全般的に需要が底堅く推移し、対予算は売上・利益ともに達成することができました。ただし、この数値には円安による押し上げ効果も含まれており、決して楽観はしていません。

成長ドライバーであるICT3事業は、低迷していた半導体需要が回復基調に入り、販売数量を着実に伸ばしています。ただしEL薬品に関しては、地域・顧客に濃淡があり私たちの想定を下回る、物足りない結果にとどまりました。

一方で、部門全体としては視座を高く持ち、3か年で強化すべきテーマを明確に定めています。それは、「品質」のレベルアップです。これからICT領域の高度化を支える品質の実現こそ、目標達成に不可欠なものと捉えています。EL薬品を例に挙げますと、品質とは「製品の純度」を指しています。BT材料であれば、顧客ニーズに応える「課題の解決力」です。光学材料の場合は、顧客要求の先を行く機能の追究と課題解決力の“併せ技”が、「品質」の

重要な要素になります。

この「品質」という強化テーマに対して、残りの2年間で個別課題への取り組みスピードを、以前にも増して高めています。なお当部門には、先行投資型のビジネスもあれば、実需に即して手堅く展開していくビジネスも存在します。ICT3事業だけを見ても、各々のスピード感や伸び方には差異があります。これらを上手くマネジメントして、個々の事業を着実に伸長させていくのが、私の責務だと自覚しています。

重点管理事業であるポリカーボネートについては、三菱エンジニアリングプラスチックス(株)の再編から2年が経過しており、同社とMGCによる「事業最適化タスクチーム」の活動にも一定の区切りを付けました。2025年度も構造改革への覚悟をしっかりと持って、事業を最適化し、経済的な効果の発現に注力します。今後は需要に見合った生産規模へ適正化を図りながら、高付加価値製品をより多く提供していく方針です。

U&Pの戦略に沿って、情報・技術・人材の活用を促進

当社が掲げている「Uniqueness」を極めるには、顧客との信頼関係を伸ばし対話を深め、新たなニーズを的確に反映した、特色ある製品を創出し続ける好循環サイクルが前提になります。このサイクルが、もう一つの軸である「Presence」として認知されることで、一定規模以上の市場が見込める新規領域の発見・開拓を促進し、収益力を伴った存在感のあるビジネスが世界で展開できるわけです。

このような認識を前提として、機能化学品事業部門では現在、「グループ会社間」「地域間」「部門間」で、情報・技術・人材の横断を促進しています。中でも、技術・品質

のレベルアップに資する活動に力を入れています。今後も、顧客価値を高める新しい提案やグレードアップした製品でシェアを拡大しながら、効率的な製造方法を確立し、コスト競争力と収益力を高めていきます。

なお2025年4月には、脱酸素剤事業と、無機化学品事業部で展開してきた環境衛生薬品事業のビジネスを再編・統合し、「生活衛生ソリューションズ(LHS)事業部」に改編しました。ソリューションの提供を通じて既存製品間でのシナジーを生み出しながら、顧客へのアウトプットを進化させていく考えです。

基本情報

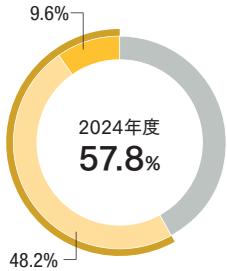
事業内容：無機化学品、合成樹脂、光学材料、電子材料、脱酸素剤

主なグループ会社：

泰興菱蘇機能新材料有限公司、SAMYOUNG PURE CHEMICALS CO., LTD.、MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.、MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.、巨菱精密化学股份有限公司、MGCフィルシート(株)、グローバルポリアセタール(株)、THAI POLYACETAL CO., LTD.、KOREA POLYACETAL CO., LTD.、三菱瓦斯化学工程塑料(上海)有限公司、三菱ガス化学トレーディング(株)、MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.、MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.、MGCエレクトロテクノ(株)、MGC ELECTROTECHNO(THAILAND)CO., LTD.、永和化成工業(株)、三菱エンジニアリングプラスチックス(株)、THAI POLYCARBONATE CO., LTD.、KOREA ENGINEERING PLASTICS CO., LTD.、エムジーシー大塚ケミカル(株)、菱電化成(株)、台豊印刷電路工業股份有限公司、(株)グラノプト、Samyang Kasei Co., Ltd.、MGCエージレス、AGELESS (THAILAND)CO., LTD.

従業員数：4,931名

主要製品群別 連結売上高構成比



主要製品群別 営業利益構成比



■ 機能化学品：

EL薬品、光学材料、エンジニアリングプラスチックス(PC・POMなど)

■ 特殊機能材：

半導体パッケージ用BT材料、OPE®、生活衛生ソリューションズ製品

※構成比は「その他の事業及び調整額」を除いて算出しています

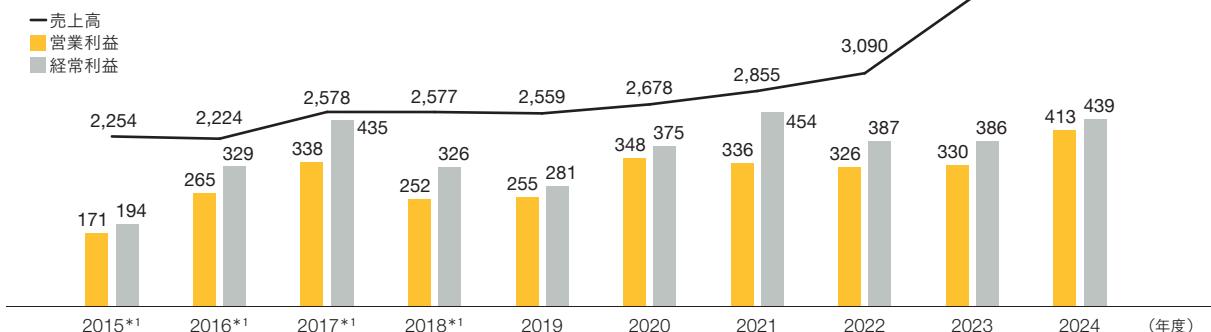
事業ポートフォリオマネジメントの特徴

機能化学品事業は、エレクトロニクスや自動車分野など、最終ユーザーに近い製品を多く扱っています。社会イノベーションを支える先端製品の開発・生産・販売を通じて、人々の暮らしに広く貢献しています。

プロダクトライフサイクルが比較的短い、先端製品のビジネスを長寿命化できている背景には、市場や技術の変化を敏感に察知し、果敢に新しい市場を開拓し続けるカルチャーがあります。市場で優位性を確立できるニッチな分野を特定し、顧客の先にある課題を解決する開発スタイルによって、顧客にとって不可欠な材料や基盤となるようなポジションを築いて、各業界におけるデファクトスタンダードになることを目指しています。そのため、顧客との対話を重視し、顧客が求める価値を創造することで、他社に切り替えられないスイッチングコストを戦略的に高めるよう努めています。また、長期的な事業成長に向けて、特許面での優位性の確保にも力を入れています。

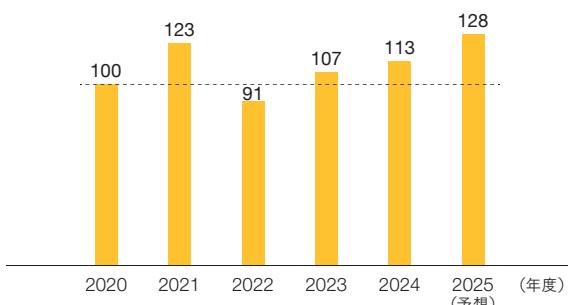
機能化学品事業の業績推移

売上高／営業利益／経常利益（億円）

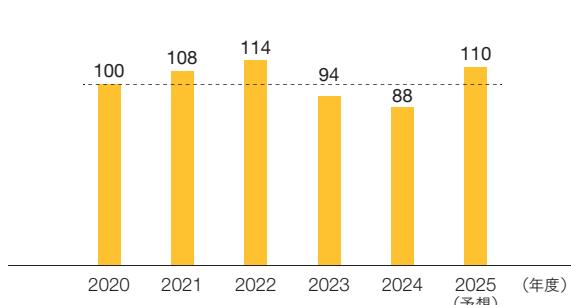


*1 旧セグメント（機能化学品／特殊機能材）の合計値

BT材料 売上高推移 (2020年度=100)



EL薬品 売上高推移 (2020年度=100)



機能化学品事業 全体戦略

2030年を見据えた価値向上のシナリオ

- 成長性の高い先端分野(半導体・通信デバイス等)の事業強化を継続するとともに、安定性の高い生活関連領域(医・食等)の事業を拡大する。
- 重点管理事業であるPC系についてU&P事業への移行を目指して経済的価値を向上させる。
- 環境貢献型ビジネスの収益化による事業競争力の向上を進める。

計数目標の進捗状況

	2023年度実績	Grow UP 2026		Grow UP 2026 2026年度目標
		2024年度実績	2025年度予想	
売上高	4,092億円	4,441億円	4,302億円	4,900億円
営業利益	330億円	413億円	399億円	650億円
経常利益	386億円	439億円	391億円	650億円

「Grow UP 2026」の製品群分類とアクションプラン

事業区分	製品群分類	主なアクションプラン
Uniqueness & Presence事業	無機化学品	半導体メーカーの新設・増設に沿って全世界で生産能力を増強し、高品質な製品を供給。
	光学樹脂ポリマー	スマートフォン以外の用途への更なる採用拡大を図る。
	半導体パッケージ用BT材料	新規分野への参入により更なるシェアの拡大を図る。
	ポリアセタール	ダブルブランド(ユピタール、ケピタール)による世界展開。
	超高屈折率レンズモノマー	増大する需要に対応する製造設備の新設と、製品のバイオマス化を確実に進める。
基盤事業	脱酸素剤	食品分野以外への拡販など事業構造の転換により収益性の向上を図る。
新規・次世代事業 (主な開発品)	リサイクルEP	環境負荷低減と収益性確保を両立する。
	新規BT積層材料	顧客からの高度化する要望に応えることで半導体基板材料市場をリードする。
	新規半導体洗浄液	新規材料や構造に対応する製品の開発により半導体の進化に貢献する。
重点管理事業	ポリカーボネート／シートフィルム	高付加価値戦略の徹底、生産・販売・研究開発体制の合理化等により、収益性の向上を図る。

重点管理事業の再構築進捗状況

● ポリカーボネート

中国拠点の高付加価値化戦略や、コスト削減が進展。生産・販売・研究開発体制を再構築中

施策実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 中国拠点の高付加価値戦略(中国EV向け販売増等) コスト削減が進展し、採算が改善 生産・販売・研究開発体制の再構築検討
→ 今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> MEP^{*2}再編効果の発現。事業環境に合わせた生産能力適正化(数年以内に15%以上削減を視野) コスト削減の徹底(原料調達見直し、海外販売拠点の再構築と技術サービス・RD体制の再編による一般管理費削減と機能強化) 高透明品等の高付加価値品比率の向上(2024年度40%→2026年度45%へ)

*2 三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社

● シートフィルム

生産拠点の集約化によりコストを削減。更なるコスト削減を進めるとともに、ターゲットを絞って新規案件の採用につなげる

施策実施状況	<ul style="list-style-type: none"> シートフィルム生産拠点集約化(MGCフィルシート大阪工場撤退。2026年3月完了見込み)によるコスト削減(2022年度→2024年度で10億円以上) 新規案件の採用獲得は遅延
→ 今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 更なるコスト削減(重点テーマを絞り込み、研究開発費を削減。各種コストの一段の見直し) ターゲット分野^{*3}の絞り込み。販売価格見直し・グレード統廃合等による採算改善 グループ総力を挙げて、新規案件獲得に向けたアクションプランを加速(中国での販路・技術支援体制整備等)

*3 自動車外装用シート、内装加飾用フィルム(高硬度)、HUDカバー材、ディスプレイ用反射防止材等

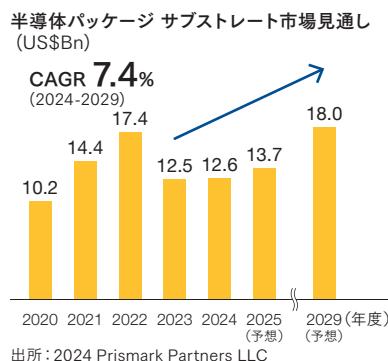
U&P事業の主な投融資案件

Grow UP 2023			Grow UP 2026
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)			
光学樹脂ポリマープラント増設(鹿島)			
EL原料過酸化水素工場新設(中国)			
EL超純過酸化水素工場新設(中国)			
超純過酸化水素 生産能力増強(韓国、天安)			
超純過酸化水素 生産能力増強(米国・オレゴン州)			
超純アンモニア水 生産能力増強(シンガポール)			
光学樹脂原料モノマープラント新設(新潟)			
EL原料過酸化水素工場新設(台湾)			
超純過酸化水素 生産能力増強(米国・テキサス州)			
超純アンモニア水 生産能力増強(米国・テキサス州)			
半導体パッケージ用BT材料 生産能力増強(タイ)			
レンズモノマー製造プラント新設(四日市)			
超純過酸化水素・超純アンモニア水 生産能力増強(米国・アリゾナ州)			
超純アンモニア水 生産能力増強(新潟)			
超純過酸化水素 生産能力増強(佐賀)			

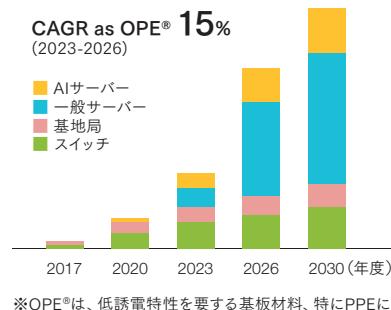
U&P事業の注力戦略:ICT3事業の進展

●電子材料

- BT材料: タイ工場を計画どおりに増設中(生産能力を約2倍に増強。2025年10月の営業運転開始に向けて計画どおりに進捗中)。次世代FC-BGAや光電融合に向けた材料提案を強化
- OPE[®]: 生成AIサーバー向け基板材料として、計画を上回り伸長中。製造拠点の整備を検討中



電子デバイス市場におけるOPE[®]使用領域の変化



●EL薬品

- 中長期的な市場成長見通しは不变。市場成長を見据え生産能力を増強中。「投資の刈り取り」フェーズへの早期移行を目指す
- 「地産地消」により、米国関税リスクを回避

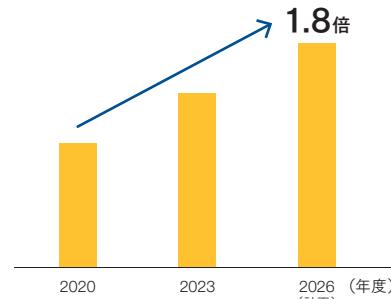
施策1 グローバル生産体制の強化

- 市場規模はグローバルで拡大する見通し。2026年度は2020年度比で2倍の規模に
- 「顧客密着型」戦略を推進。市場拡大を見据え、計画に沿って「地産地消」で生産能力を増強中

施策2 最先端ニーズに応える研究開発体制

- 最先端の半導体製造プロセスは技術情報の管理が厳しいため、生産拠点に加え、研究開発においても「顧客密着型」戦略を推進
- 海外拠点での研究開発人員を拡充中。タイムリーなフィードバックを受けることができるようになり、迅速に新製品を開発

EL薬品 生産能力合計の推移



●光学材料

- 光学樹脂ポリマー: スマホの薄型化やペリスコープカメラ搭載モデルの増加等に伴い、カメラの高機能化が進展。計画を上回り、好調に推移。車載カメラやAR/VRヘッドセット向け等の需要も拡大する見通し
- レンズモノマー: 2026年レンズモノマーの製造設備新設に向け順調に進捗。バイオマスレンズモノマー「Episleaf™」を開発、2024年に販売を開始

生活衛生ソリューションズ(LHS)事業部の設立

2025年4月1日付で「生活衛生ソリューションズ事業部」を設立し、脱酸素剤事業と無機化学品事業部で取り扱う環境衛生薬品事業を再編・統合しました。両事業は対象市場が近く、シナジーが期待できることから、再編・統合により販売の拡大と一層の高付加価値化を実現します。人口増加に伴う食料問題、食品廃棄ロス、環境汚染といった現在の社会課題や、安全・安心な食の提供、コロナ禍をきっかけとした衛生意識の高まりなどの社会ニーズに応え、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

グリーン・エネルギー&ケミカル事業戦略

担当役員レビュー

事業の将来像を明確に描き、顧客に認めていただける価値を創出することによって収益性を向上していきます

赤瀬 英昭

取締役 常務執行役員
グリーン・エネルギー&ケミカル事業部門担当



主力製品は堅調に推移。顧客志向の新規事業も順調に進捗

2024年度は、JSPを持分法適用会社に移行した影響によって、営業利益が127億円となり、前年比28.2%減となりました。ただし、この影響を除けば、メタノール、ヨウ素など主力製品の販売は堅調に推移しました。

U&P事業として、オランダで積極的な投資を行ってきたMXDAの新工場は、建設事業者の労働力不足が深刻化していることから計画を約1年延期し、2025年度中の完工を予定しています。MXDAはこれまで、生産能力がひっ迫した状況だったため、新プラントの稼働後は収益の拡大に大きく貢献できると考えています。今後は工場立地の優位性とグループの商社機能を活かして、MXDA製品群の展開エリアを、欧州だけでなく中東やアフリカにも拡大する構想を持っています。また、MXナイロンや1,3-BACなどの誘導品も含めて、顧客ニーズに応じたカスタマイズと成形加工など、サービス面の一層の充実を図っていきます。

芳香族アルデヒドについては、主要顧客の在庫調整の影響を受けつつも、下半期は需要が回復して計画どおりの収益貢献を果たしました。

グループ会社の東邦アーステックでは、2024年4月から水溶性天然ガスとヨウ素の増産を開始しています。特に、産地の約90%をチリと日本が占めているヨウ素は、世界

的に市場が拡大している一方、増産のハードルが高いこともあって需給バランスがタイトな状況です。その結果、上昇した市況の恩恵を享受できています。加えて、MGCがヨウ素系誘導品を開発・生産する上で、自社資源としてのヨウ素を保有していることも、当社グループに競争上の優位性をもたらしています。

また、CFRP^{*1}プリプレグやEUV^{*2}レジスト向け素材、PSC^{*3}向けヨウ素素材など、顧客評価の高い新規事業の開発が複数進展しています。これは、研究統括のゲート管理が奏功し、当社の研究開発力が強化され、顧客から共創パートナーとして選ばれる存在になってきたことの表れであると評価しています。

一方、2024年度は不採算事業のオルソキシレンチェーンを停止しました。PIA^{*4}については、付加価値の高いMXDAを含むメタキシレンチェーンの一環として一定期間は生産を継続します。ただし、同じくメタキシレンを原料とするMXDAのオランダ新工場完工を機に、戦略製品であるMXDA向けの使用量を上げ、不採算が続くPIAへの使用量は相対的に減らしていく計画です。

*1 炭素繊維強化プラスチック

*2 極端紫外線

*3 ペロブスカイト太陽電池

*4 高純度イソフタル酸

「GEC推進室」を設置し、官民連携や企業連携を強化

2024年4月より、事業部門名称に「グリーン」を掲げたことで、カーボンニュートラルに現実的な解を提示できる企業として、社外からの関心や期待度がますます高まってきたと感じています。実際、当社のメタノールを介した環境循環型プラットフォームとしてのCarbopathTMをはじめ、グリーンアンモニアや水素、そしてCCSによる価値創造への引き合いは相次いでおり、業界の垣根を越えた相当数のプロジェクトが並走している状況です。外部環境としては、欧州が牽引してきた理念先行型の気候変動政策は調整局面に入ったと認識しています。ただし、現実の気候変動問題が深刻度を増していることに変わりはなく、当部門も

カーボンニュートラルを重要テーマとして推進しています。その一環として2024年4月に「GEC推進室」を設置し、主に行政との連携強化によって、入手する情報の質や迅速さの向上に努めながら、様々なプロジェクトを横串機能で管理しています。

当部門の最重要テーマは、限界利益の向上と修繕費の抑制による収益性の向上です。限界利益を高めるには、何よりも「顧客に認めていただける価値」の創出が肝要です。この方向性にフレが生じないようマネジメントしながら、事業の将来像を明確に描き、実現に向かって導くことが私の役割だと認識しています。

基本情報

事業内容：

天然ガス系化学品、キシレン系化学品、エネルギー資源・環境、
ライフサイエンス

主なグループ会社：

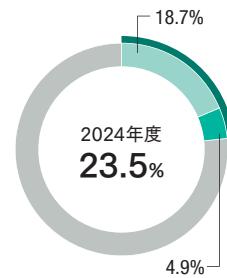
三菱ガス化学ネクスト（株）、MGCターミナル（株）、（株）東邦アーステック、MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.、三菱ガス化学トレーディング（株）、MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.、MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.、MGCエネルギー（株）、MGCウッドケム（株）、国華産業（株）、日本・サウジアラビアメタノール（株）、METANOL DE ORIENTE, METOR, S.A.、BRUNEI METHANOL COMPANY SDN. BHD.、日本トリニダードメタノール（株）、湯沢地熱（株）、（株）JSP、安比地熱（株）

従業員数：2,634名

主要製品群別 連結売上高構成比



主要製品群別 営業利益構成比



■ 天然ガス系化学品：

メタノール、メタノール／アンモニア系化学品、エネルギー資源・環境事業

■ 芳香族化学品：

MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料、キシレン分離／誘導品

※ 構成比は「その他の事業及び調整額」を除いて算出しています

事業ポートフォリオマネジメントの特徴

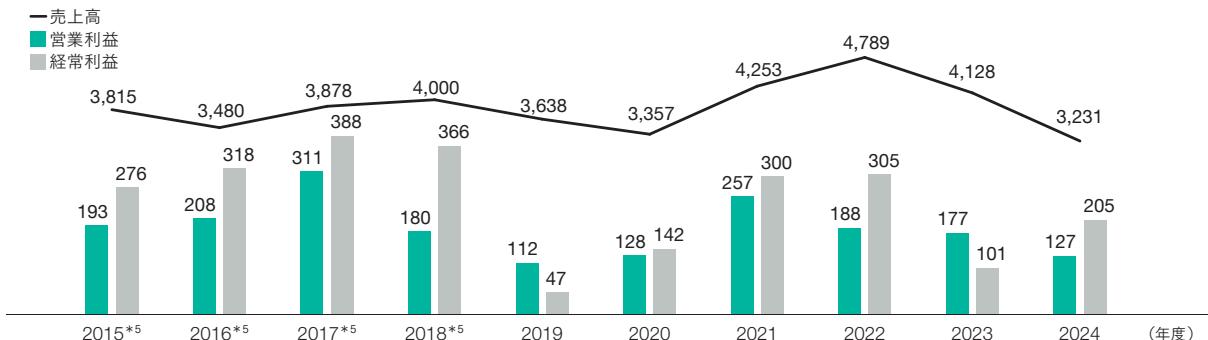
当事業部門は、天然ガスと混合キシレンを起点にしたダウンストリームを展開しています。天然ガスチェーンでは、C1ケミカル技術を活かした環境循環型プラットフォームを構築し、従来にない新たな価値を提供すべく、事業の価値転換を推進中です。一方、混合キシレンチェーンでは、超強酸触媒を工業的に使いこなす唯一の企業として、メタキシレン誘導品を中心に特色ある化学品をラインナップし、顧客ニーズに応じた付加価値の向上に努めています。

価値転換のための役割を明確化した組織体制を構築しており、誘導品で利益率の高いファインケミカル製品の拡充を図っています。部門全体では、資源開発から原料、誘導品に至る強靭なプロダクトチェーンの確立を目指し、CO₂・廃プラスチックなどの原料利用も含む技術開発を行っています。これらの事業によって、カーボンニュートラルにつながる現実的な解を出せる企業グループとして、循環型社会の実現を目指しています。

なお、機能化学品部門のU&P事業であるポリアセタールやBT材料の原料の一部は、本事業部門の主力工場で製造しており、品質保証や技術開発、及び調達プロセスなどの面で、グループ全体の競争力向上に貢献しています。

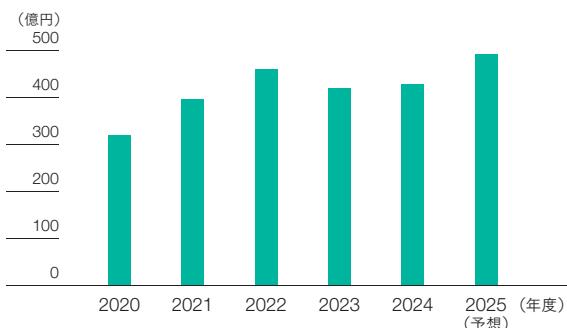
グリーン・エネルギー＆ケミカル事業の業績推移

売上高／営業利益／経常利益（億円）

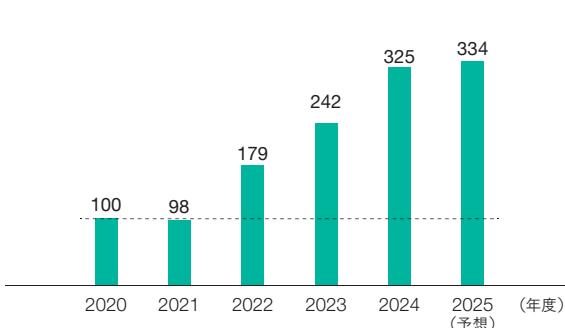


*5 旧セグメント（天然ガス系化学品／芳香族化学品）の合計値

ハイパフォーマンスプロダクト 売上高推移



ヨウ素 売上高推移 (2020年度=100)



グリーン・エネルギー&ケミカル事業 全体戦略

2030年を見据えた価値向上のシナリオ

- U&P事業として大規模な投資を行ったMXDA、芳香族アルデヒド事業等の拡販を実行し、着実に投資回収を行い、利益最大化を図る。
- 重点管理事業は各種コストを削減し、バランスシートのスリム化等を推進することにより、事業環境の変化へのレジリエンシーを強化する。
- カーボンニュートラル実現に向けた新たな取り組みとしてメタノール等の主原料を低炭素化し、再価値付けした形で事業展開する。

計画目標の進捗状況

	2023年度実績	Grow UP 2026		Grow UP 2026 2026年度目標
		2024年度実績	2025年度予想	
売上高	4,128億円	3,231億円	2,970億円	3,500億円
営業利益	177億円	127億円	114億円	220億円
経常利益	101億円	205億円	157億円	320億円

「Grow UP 2026」の製品群分類とアクションプラン

事業区分	製品群分類	主なアクションプラン
Uniqueness & Presence事業	MXDA	欧州新プラントの確実な立ち上げにより投資の成果を刈り取る。
	芳香族アルデヒド	用途拡大により需要の伸長を図る。
	MXナイロン	食品包装材料用途向け販売を拡大し、事業を通じた環境問題への対応を推進する。
	メタノール	ブルー／グリーンメタノールの生産販売を開始し、環境循環型メタノール「Carbopath™」の市場を創出する。
	エネルギー資源・環境事業	CCS事業の創出、グループでの水溶性天然ガス／ヨウ素増産、再エネ拡充を推進する。
基盤事業	アンモニア・アミン類	クリーンアンモニア事業の事業拡大。
	MMA系製品	川下製品を含めたMMAチェーン全体の利益最大化を図る。
	ホルマリン・ポリオール系製品	適切な事業運営方法を検討し、収益性の向上を図る。
新規・次世代事業 (主な開発品)	炭素繊維複合材料	ガスバリア性等の特徴を持つ複合材料中間体を開発し、様々な用途に提案する。
	抗体医薬品受託製造事業	医薬品製造業許可を取得し、GMP体制 ^{*6} の下、製造実績を蓄積する。
重点管理事業	キシレン分離／誘導品	更なるコストダウンを推進し、川下のU&P事業を支えるインフラとなる。

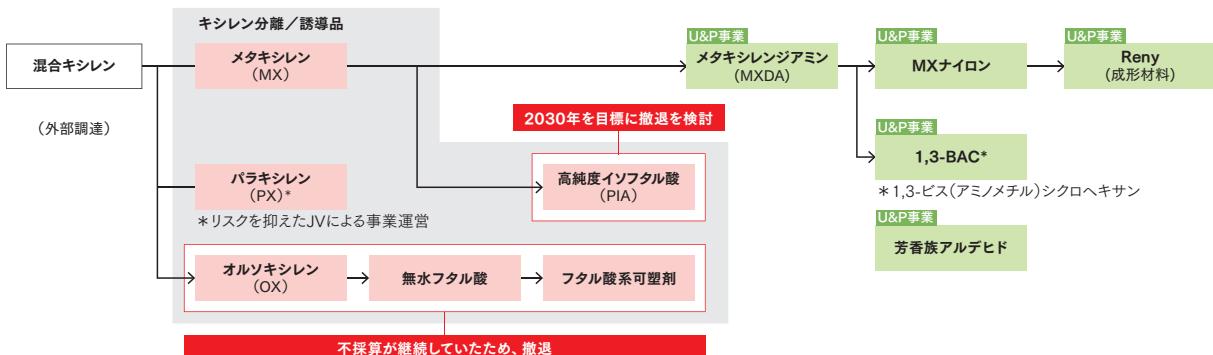
*6 医薬品の品質を確保するために製造業者・製造販売業者に求められる適正製造規範

重点管理事業の再構築進捗状況

●キシレン分離／誘導品



キシレン分離／誘導品のプロダクトチェーン



U&P事業の主な投融資案件

Grow UP 2023			Grow UP 2026	
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～	
芳香族アルデヒドプラント増設(水島)				
水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・西蒲原)				
MXDA生産設備新設(オランダ)				
水溶性天然ガス・ヨウ素の新規開発(新潟・東新潟)				
環境循環型メタノール製造設備新設(国内)				

U&P事業の注力戦略

- MXDA

- ・インフラ用途（防食塗料）の最大市場である欧州（オランダ・ロッテルダム工業地帯）に建設中
 - ・早期立ち上げを遂行するとともに、最大需要地である欧州を起点に拡販に向けた各種取り組みを推進



欧洲プラント

- ・2025年度下期中に完工・商業運転開始を予定
 - ・前期末までの設備投資総額は約410億円
 - ・減資償却年数は15~20年を見込む



MXDAの用途展開

● インフラ用途:防食塗料

- ・エポキシ樹脂硬化剤向けは、下期以降、緩やかな需要回復を見込む
 - ・TS活動の強化により、新興国への拡販に注力



● 新規製品・用途開発

- ・新規需要創出に向けて、環境配慮型製品や新規処方の提案を推進



● 川下への用途展開: ポリマー材料

- ・引き続き、採用地域の拡大と、伸長するバリア包材市場における新規需要の獲得により、食品包装材料用途向け販売を拡大

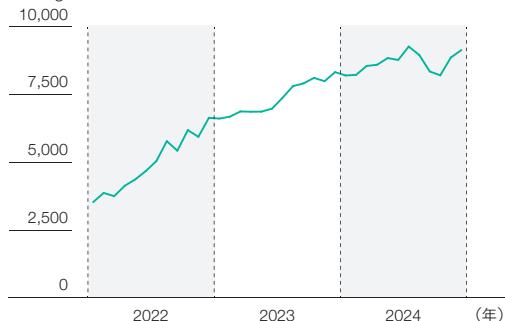


● エネルギー資源（ヨウ素事業）

- ・日本は世界第2位の産出国であり、国内産出量は千葉県約82%、新潟県約11%。医薬品から電子素材まで、広範囲での利用が進む。近年、需給バランスのタイト化により、ヨウ素市況が高騰中
 - ・当社のヨウ素事業では、子会社である東邦アーステックにて、水溶性天然ガス採掘の際に汲み上げる“かん水”に含まれるヨウ素を分離
 - ・東邦アーステックでは国内の約9%を生産。2024年には増産プラントも一部稼働開始。現在も増産工事継続中

ヨウ素市況

(円/kg)



出典：税関ホームページより作成
(<https://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=77&P=1,1,,1,,2,2022,2024,,2,280120000,,,,1,,,,1,,>)

生産基地(かん水の汲み上げ)及び還元基地(入れ戻し)／ヨウ素製造プラント

